（別紙3）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター　こども発達支援センター　オリーブ緑が丘			
○保護者評価実施期間	2026年6月25日	～	2026年7月10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	55	（回答者数）	40
○従業者評価実施期間	2026年6月25日	～	2026年7月10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年7月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の連絡帳を通じた細やかな情報共有や、保護者の思い・相談に親身に耳を傾ける共感的な姿勢を心掛けています。	送迎時や連絡帳を活用して日々の活動状況や児童の様子や変化を伝え、家庭との共通理解に努め、信頼関係を構築しています。	連絡帳の記載内容について実施報告のみにならず、から個々の児童の様子や成長の変化に重点を置いた記述へ深めるとともに、保護者が気軽に相談できる機会や面談の場を拡充します。
2	運動・工作・集団遊びなど5領域を意識した多様なプログラムを用意し、構造化や環境配慮を行いながら、子どもたちが安心して楽しめる活動や環境づくりを進めています。	室内環境の整理や視覚的提示等の工夫により、児童の発達段階や障害特性に合わせた環境づくりを意識して行っています。	5領域（健康・生活、運動・感覚等）や基本活動のねらいを職員間で事前に共有し、児童一人ひとりの状態に合わせて、個別支援と集団活動をバランスよく柔軟に組み合わせて提供します。
3	法人内事業所や姉妹園と情報共有と相互連携を行っており、就学前からの支援経過や配慮事項について共通理解を持ちながら支援を行っています。	利用開始時やお子様の環境移行期において、アセスメント情報や配慮事項の引き継ぎを丁寧に行い、事前に個別ニーズを職員間で共有・確認しています。	エール緑ヶ丘との連携・補完体制を活かしつつ、職員の業務効率化や配置見直しを進め、児童一人ひとりとゆとりを持って関われる体制づくりを推進します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連絡帳等を通じた児童の具体的な様子や成長の変化に関するフィードバックの質の向上、行事・予定等の早期の案内、保護者が気軽に相談できる場の確保が必要。	毎日の送迎時等の中での話だけでなく、児童の日々の変化を丁寧に伝える機会や、相談の機会をさらに増やしていくための体制づくりが十分ではない。	日々の連絡帳で児童一人ひとりの具体的な姿や変化を中心に伝えるとともに、アプリ等を活用し、行事予定の早期共有や、定期的な相談・面談の場を設定し、各家庭との信頼関係と共通理解をより一層深めます。
2	個別支援計画の再説明や丁寧な合意形成、定期的なモニタリングなど、一連の療育プロセスの確実な定着・運用の徹底が求められている。	行事やイベント等の事前アナウンスのタイミングに対する配慮や、季節に応じた企画・イベントを計画的かつ継続的に実施・定着させるための体制づくりが十分ではない。	全利用者の支援計画および同意状況を総点検し、保護者への丁寧な再説明と意向の汲み取りを行うとともに、定期的なモニタリングと見直しのサイクルを確立・定着させます。
3	支援開始前の情報共有や施設内研修の機会を一層増やすことで、アレルギー対応、服薬・健康管理、安全計画などの重要事項について、全職員が常に同じ認識を持って対応できる体制が不十分。	日々の業務の中で、その日の活動における配慮事項や役割分担を事前に職員で細かく確認し合う打合せ時間や、各種マニュアルの周知徹底を図る研修時間を十分に確保できていない。	支援開始前の打ち合わせの時間を利用して安全・健康情報の周知と役割分担を行います。あわせて安全管理・アレルギー対応・権利擁護に関する施設内研修を計画的に開催し、安心・安全で質の高い支援を提供します。